

川柳 さいたま



万華鏡といふこと

願法みつる

近時、国内外の政治や社会、経済、法曹、科学などあらゆる分野で、「不正」という言葉が頻発している。まさに一億総不正の時代という観がある。賞讃に続く批判批評、友好に続く反発離脱。少し目を離すとすぐに焦げつくお好み焼きの裏表という様である。まさに不正の万華鏡と言うより他はない。だが…。

兼行法師然と構えて、だから人間族とは面白いものよと覚めた目で眺めれば、徒然草的な川柳でも物すること出来るのかも知れない。それにしても、こんな世情だからこそ川柳の出番なのだろう。多分に皮肉を込めて、ずばり人間を詠いたくなる。おおいに川柳しようの時代である。俳句では無理だろう。

でもその川柳は、世相のままの転変を映すギラギラした万華鏡ではなく、年配に相応しい落ち着いた色調の万華鏡でありたい。皮相に流されず、自らの来し方に淀んだ正不正をも濾過して、心の深みを吐露しながら作り上げる様々な模様でありたい。

お浄土とやらの光の地が見え始めた。一年配であれば、眼科通院も余儀ないものになる。極彩色は目に毒である。つれづれなるままに日暮し硯に向かうという文言にも、なぜか寄り添いたい刻があるものだ。

五月号 目次

わたしの好きな句 前島 滋明	表紙	2
巻頭言 万華鏡といふこと	願法みつる	1
彩玉集―同人吟	2	2
古丘の世界	文・今村 寿子	5
雑詠	願法みつる選	6
映像川柳	石田 正則	6
七七句	松田重信選	14
私の雨模様	織田 和子	18
六月に想う(私の命の恩人)	岡田 時雄	20
交替鑑賞(五月号より)	加藤孤太郎	22
初歩添削講座「健やか」雑詠	宮本彩太郎	26
ふるさと紀行	願法みつる	28
随想 銀座の鴨		
私の雨模様		
題詠 「雨の降る日は天気が悪い」	四分一周平	30
「誤差」	原 崇雄	31
「避ける」	大塚やまぶき	33
「しみじみ」	茂木 道子	33
さいたま五月句会	選	
インフォメーション		
編集さろん		
句会案内		
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	表紙	4
	表紙	3

平成26年

6 月号 (No.655)

日川協加盟